

水土文化研究会 第14回研究会

「見つめる～過去から、今、これからを～」

「農村の暮らし、文化が育む景観とその伝え方」

田中尚人（熊本大学政策創造研究教育センター准教授）

要旨

本研究では、平成20年（2008年）7月に棚田として初めて国の重要文化的景観に選定された熊本県上益城郡山都町の白糸台地を流れる、通潤用水を基盤として成立する文化的景観の保全について考察した。まず、「共感を呼ぶ地域の履歴」と題し、文化的景観の基盤としての通潤用水の建設史を整理し、土木遺産としての価値を明らかにした。次に、「自治と協働」に着目し、通潤用水の流れる白糸台地の地域アイデンティティ継承に関する課題と地域文化継承の担い手について整理した。最後に、「ふるさとを思う心」と題し、「地域らしさ」を引き継ぐために文化的景観の活用について提言している。本研究の成果として、通潤用水を基盤として成立してきた文化的景観が、地域アイデンティティを多様な主体の有機的な連携、協働により持続可能なカタチで保全され、その価値を農村の暮らし、生活文化として後生に伝えていくことが重要であることが分かった。

1. 文化的景観の基盤「共感を呼ぶ地域の履歴」

- ・ 文化的景観とは
- ・ 地域の履歴を携えた土木遺産
- ・ 使い続けることが、守ること

2. 文化的景観の保全「自治と協働」

- ・ 地域アイデンティティの継承
- ・ 地域文化継承の担い手
- ・ 食と風景の繋がり

3. 文化的景観の活用「ふるさとを思う心」

- ・ 熊本地震と地方創生
- ・ 地域らしさを引き継ぐための地方創生
- ・ ふるさとの未来をつくる風景